



# 地域で子どもたちを守ろう!

最近、子どもたちが犯罪などの被害に遭う事件が、テレビや新聞で毎日のように報道されています。

こうした事件は自分の身を守る力が弱い子どもたちを狙った大変凶悪な事件であり、学校や保護者は一体どうすれば子どもが安全に生活できるのかが大変重要な課題になっています。

今回は市内で子どもたちの安全について地域ぐるみで活動されている事例をいくつか紹介するとともに、今後の対策について考えたいと思います。

## 子どもたちの

### 安全が失われる



子どもたちは学校が終わると元気よく公園や田んぼで遊んでいた昔前も、今では随分と変わってしまいました。中には子どもたちを不審者から守ろうと岡山県では自宅から学校まで一定の距離のある子どもたちがタクシードで通学しているそうです。

私たちの子どもの頃には下校途中に友だちと稲を刈り取った後の田んぼに入ったり、少し通学路とは違う道を通り新しい発見を試みたりと、『通学』ということから学ぶこともたくさんありました。しかし現代では通学時間に限らず、学校を離れた塾や自宅にいる時でさえも、犯罪に巻き込まれる可能性もあり、学校や保護者は安心して生活を送るためには何らかの対策を講じなければいけなくなりました。

## 被害に遭うのは小学生、

### 下校時間帯が最も多い

では被害に遭う可能性が高くなるのはどのような状況にある場合でしょうか。滋賀県内では小学生への「声かけ」事案が最も多く、しかも下校途中がその大半を占めているということが昨年の調査結果からも伺えます。これは下校時間帯に人通りが少なくなる場所や、一人になってしまう時間帯があることが原因のひとつであると考えられます。市内でも「声かけ」や体の一部を見せる「露出」、また体などに触れる「接触」などの事案が数件発生しています。



## 活動に対して300通もの礼状

～希望ヶ丘自警団～

取材協力：まちかど特派員 上西 定雄（甲南町）

今回は他の町からも多くの視察があるという希望ヶ丘自警団にお話をお聞きしました。

現在は80名のメンバーで青色回転灯を取り付けた車で夜間のパトロール、児童の登下校時の立番などをされています。また新聞配達をされているメンバーもいることから「早朝の様子も確認できます。」と大松団長は語っておられました。昨年のクリスマスには活動に対して児童たちから約300通もの礼状が届いたそうです。

### 結成したきっかけは？

多発する事件や事故から地域住民が、安全で安心して暮らせるまじにするために結成しました。

### 活動している皆さんからの感想は？

自警団のメンバーは定年を迎えた高齢者で、希望ヶ丘及び希望ヶ丘本町両自治会員が交流と親睦を深めています。

また、様々な活動により事件や事故が激減し、大変喜ぶとともに、今後もより一層頑張っていこうと思っています。



▲車にステッカーを貼り巡回中



▲児童たちから届いた礼状の数々



▲「子どもを守ろう」と書かれた腕章とステッカー

## 被害を防ぐための 市内での様々な取り組み



市内の学校などでは現在、不審者情報の掲載された安全マップの作成や防犯ブザーの配布、子ども110番の家、通学路の点検、あいさつ運動、防犯パトロールなどの様々な取り組みが進められています。特に最近では地域で子どもたちを守る活動が活発化してきました。

## 貴生川幼稚園の保護者の方々による取り組み

▼保護者が協力して手作り看板を作成中



▲自分の地域を点検し作成した安心安全マップで危険場所を再確認

具体的にはPTAが協力し、子どもの安全のために地域の人々に協力を呼びかける手作り看板を立てる、「子どもを守ろう」と書かれた腕章やステッカーを作り協力を

求めることで地域の目を増やす。また親子で自分の地域を点検し「安心安全マップ」を作り、保護者どうしで話し合うなどの活動があります。一方で地域の老人クラブの会員の方々が協力し、下校時に自宅前で子どもたちを見守る活動を始め、現在ではその活動が発展し、地域で防犯パトロール隊を結成、保護者と地域が一体となり子どもを守ろうという取り組みも進んでいます。また区や自治会の中で当初、防災や消防活動を目的に結成された自警団が、防犯活動への取り組みにまで拡大されているところもあるようです。

## 安心・安全のまちへ

現代では子どもの安全を守るためにはこれで十分という事はないのです。学校、保護者、地域が一丸となり子ども安全について考え、対策を講じる必要が出てきました。

今回紹介させていただいたのは市内での活動のほんの一部です。これを機に市内の地域でも子ども安全に対する取り組みがより一層広がることを期待します。学校はもちろんのこと、保護者、地域が一体となり未来を担う子どもたちが安心して生活できるように皆さんの力をお貸しく давайте。

それが子どもたちを守る。何にも勝る対策になるのだと思います。